

第1話

熊大ポリシーの目指すもの

続けない＋教えない＋作らないeラーニング

- eラーニング推進のための科目間横断ポリシー(略称：熊大ポリシー)として、「リンク集＋毎回クイズの整備＋α」を提案します。
- 続けない＋教えない＋作らないeラーニング
 - 続けない＝今までの教育方法を再検討する
 - 教えないで学ぶ環境を提供する(SDL)
 - 作らない＝あるものは使う→共有物を作る
- 実現しようとする理由は、IDによる大学教育刷新
 - eラーニング推進機構は下請け機関ではない！
 - そんなに強気に出てよいのか？ 強気に出る準備はOK？

熊大ポリシー(案) リンク集＋毎回クイズの整備＋ α

- リンク集＝科目に参考になる公開サイトリスト
 - 使えるものは使わせてもらう：無駄な開発を防止
 - Webサイトの利用方法を学生に教える
- 毎回クイズ＝講義内容の理解を確認する10問程度の多肢選択式(自動採点可能)問題
 - 出席点代わりに使う：何回でもチャレンジ可能にする
 - 作問することで講義内容を焦点化・再設計できる
- $+\alpha$ ＝担当教員が希望する上記以外の目玉的要素
 - 予算内で要望にこたえる：毎回クイズ作成の交換条件
 - 作成側のスキルアップをねらう：少しずつ開発：逆提案も

「続けない＋教えない＋作らないeラーニング」 の出典

- [2006.11.30\[PDF\]](#) 講演「セッション1:続けないeラーニング、セッション2:教えないeラーニング、セッション3:作らないeラーニング」, [eラーニングフォーラム2006WINTER](#) (トラックB:「続けない＋教えない＋作らない＝次世代IDの勧め」), 青山学院大学 (北村士朗・市川尚と共同発表)
 - 事例①:熊本大学全学eラーニング推進への取り組みp15
 - 熊大方式全学eラーニングコンテンツの作成方針(鈴木私案)

ランチョンセミナープレゼンスタイルの提案

- 1枚目にリンク付の要約を用意する。
- リンクは、2枚目以降へのリンクと外部資料へのリンクを含めることができる。
- 発表者は1枚目を5－10分程度で話す。
- 2枚目以降には補足資料を用意する。
- 2枚目以降は参加者の求めがあった場合に限り、求めに応じて表示することができる。
- 以上のプレゼンスタイルを本発表で例示する。
- アーカイブビデオは1枚目についての発表とそれ以降を分割して公開する。